

3・4月のテーマは…

埼玉県の高校図書館司書が選んだ イチオシ本 2023

県内の高校図書館司書の方々の投票によって決定した「イチオシ本」の中から、日高市立図書館おすすめの本を紹介します！

『いとエモし。 超訳日本の美しい文学』
Koto[訳]／サンクチュアリ出版／918 イト

心が揺さぶられ何とも言えない気持ちになることを指すことば「エモい」。

『枕草子』『万葉集』『方丈記』『紫式部日記』などの古典文学を、今を生きる私たちの感覚に寄せた現代語訳（エモ訳）とエモいイラストで紹介する。



『レーエンデ国物語』
多崎礼著／講談社／913.6 タサ

英雄の父と旅に出た貴族の娘・ユリア。呪われた地レーエンデで出会ったのは、寡黙な射手トリスタンだった。

ユリアは、はじめての友達、はじめての仕事、はじめての恋を経て、やがてレーエンデ全土の争乱に巻き込まれていく――

「イチオシ本 2023」は、2022.11～2023.10 に出版された本を対象に、埼玉県内の高校図書館司書の皆さんの投票で選ばれました。

主催の「埼玉県高校図書館フェスティバル実行委員会」のHPもぜひのぞいてみてください。

イチオシ本



『私たちの世代は』

瀬尾まいこ著／文藝春秋／913.6 セオ

コロナ禍で、今まで通りの学校生活を送れなかった皆さんに読んでほしい一冊。前を向いて進んでいく勇気をもらえるお話。



『動物たちは何をしゃべっているのか？』

山極寿一・鈴木俊貴著／集英社／481 ヤマ

動物たちは何を考え、どんなおしゃべりをしているのか？シジュウカラの言葉を解明した動物言語学者と、ゴリラ研究の世界的権威が言語の進化と未来について語り合う。

『無人島、研究と冒険、半分半分。』

川上和人著／東京書籍／462 カワ

本州から南に約1200kmの位置にある絶海の孤島、南硫黄島。

原生の生態系が残る奇跡の島に、特別なミッションを受けて挑む鳥類学者たちの姿を、臨場感あふれる筆致で描く。